

1年生 探究活動

1年生はいろいろな科学と触れ合うことが大切です。広い分野の講座をたくさん受けて多くのことに興味関心が持てるといいですね。また、2～4名でグループを作り課題研究にも取り組みます。韭崎高校には幅広い分野に対応できるように様々な器具や普通の高校にはないような実験器具、試薬など各種取り揃えています。SSH指定校という立場を生かしてたくさんのごことに取り組みます。

各種講座

アドバンス講座	
データの分析とデータサイエンス	都留文科大学教養学部学校教育学科 新井 仁 教授
光の宇宙と暗黒の宇宙	名古屋大学 杉山直 総長
オオムラサキの生態と里山の保全	北杜市オオムラサキセンター 富樫 和孝 氏(オオムラサキセンター館長)
ぶどうの糖度と酸度をはかる	山梨大学生命環境学部山梨大学ワイン科学研究センター 久本雅嗣 准教授
微生物と生態系	山梨大学生命環境部環境学科 田中靖浩 教授
全校サイエンス講演会	
人類は宇宙で繁栄できるのか～クローン 技術とフリーズドライ精子～	山梨大学 発生工学センター 若山 照彦 教授

こうして、一覧にしてみると座って聞く講座が多いように思えますが、実際はフィールドワークもあります。さらに年間通して行うグループ研究です。研究での実験をどれだけ多く行えたかが今後の研究が成功するカギになってくるといっても過言ではありません。右に令和7年度1年生グループ課題研究のテーマを載せました。2年生になってテーマが変わったり、継続した研究でもどんな結果がでてくるのか？答えがないのがおもしろいですね。

R07 グループ課題研究

NO	テーマ
1	マイクロプラスチックの研究
2	地球温暖化と土壌の関係
3	マイクロプラスチックが植物成長に与える影響
4	藻類（ミドリムシ）の増殖条件最適化
5	高校生の勉強と睡眠の質の関係性
6	ベンチュリ効果を利用した自然換気の効率
7	仕切りによる液状化対策
8	アルミ反射板の形状・位置がWi-Fiの受信強度の速度に与える影響
9	話すことが苦手な子供のためのアプリ開発
10	AIによる、日記データを用いた個人分析の有効性と限界の検証

